校内教育支援センター（ＳＳＲ）

設置・運営の手引き

令和７年３月
新潟県教育委員会

はじめに

令和5年度、全国の小・中学校における不登校児童生徒数は、34万人を超え、11年連続で増加し、過去最多となりました。本県の不登校児童生徒数も8年連続で増加しており、不登校児童生徒への対応は、すべての学校において、大きな課題となっています。

こうした状況を受け、県教育委員会では、令和6年度から校内教育支援センター（スペシャルサポートルーム、以下SSR）を核とした不登校対策に取り組んでいます。SSRは、 登校しづらかったり、登校はできるが自分の教室に入りづらかったりする児童生徒が、自分の教室以外の場所で、自分に合ったペースで学習・生活できる、学校内の新たな居場所のことです。SSRがあることで、安心して登校できる児童生徒も少なくありません。県内の中学校の79%、小学校の38%（令和6年10月生徒指導課調べ）にSSRが設置されており、利用する児童生徒の状況やニーズに応じた指導が行われています。

令和6年度、県内6校をモデル校とし、「SSRの効果的な運営方法」に関する実践研究を実施したところ、多くの学校にとって参考となる好事例がたくさん報告されました。そこで、これらの好事例を集約し、「校内教育支援センター（SSR）設置・運営の手引き」にまとめ、全県各学校に発信することといたしました。

本手引きには、モデル校による先進的な取組を紹介するとともに、県内のSSR設置校が行っている工夫や、設置運営Q&Aを示しました。各学校において、学校で学びたい、すべての児童生徒の学びの実現に向け、本手引きをご活用いただければ幸いです。

令和7年3月
新潟県教育委員会

◆ 目　次 ◆

1　不登校の現状とCOCOLOプラン ・・・・・・・・・・・・・ P 1

参考　県内の校内教育支援センター設置状況 ・・・ P 3

2　県内におけるSSR先進校の取組

・ SSRを新規に設置

糸魚川市立田沢小学校 ・・・・・・・・・・・ P 4

・ 児童が運営に参画

南魚沼市立六日町小学校 ・・・・・・・・・ P 6

・ オンラインの活用

村上市立村上東中学校 ・・・・・・・・・・・ P 8

・ 学校＝共生社会を学ぶ場

上越市立城西中学校 ・・・・・・・・・・・・・ P10

・ 学童保育教室の活用

関川村立関川小学校 ・・・・・・・・・・・・・ P12

・ SSRにおける学習と評価

柏崎市立鏡が沖中学校 ・・・・・・・・・・・ P14

3　SSR設置・運営で大切なこと ～各学校の取組から～

・ 人的配置の工夫 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ P16

・ 設置環境の工夫 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ P16

・ 運営の工夫 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ P17

4　SSR設置・運営Q&A ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ P18

Ⅰ　不登校の現状と
COCOLOプラン

Ⅰ 不登校の現状とCOCOLOプラン

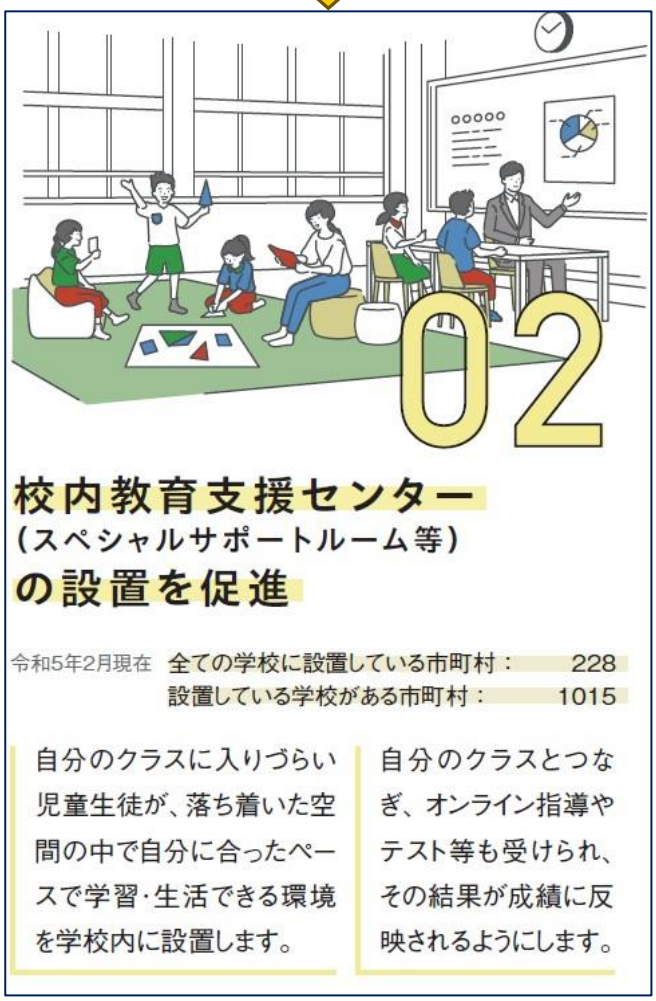
令和3年度「児童生徒の問題行動・不登校等生徒指導上の諸課題に関する調査」では、全国の不登校児童生徒が30万人を越えました。

こうした状況を受け、文部科学省では、令和5年3月31日に、「誰一人取り残されない学びの保障に向けた不登校対策」（COCOLOプラン）をとりまとめました。

COCOLOプラン
表紙

COCOLOプランが
目指す姿

COCOLOプランでは、目指す姿の１つを、「不登校の児童生徒全ての学びの場を確保し、学びたいと思った時に学べる環境を整える」としており、校内教育支援センター（以下、SSR）の設置を促進しています。



このプランではSSR設置促進について、自分のクラスに入りづらい児童生徒が、落ち着いた空間の中で自分に合ったペースで学習・生活できる環境を学校内に設置するとしています。

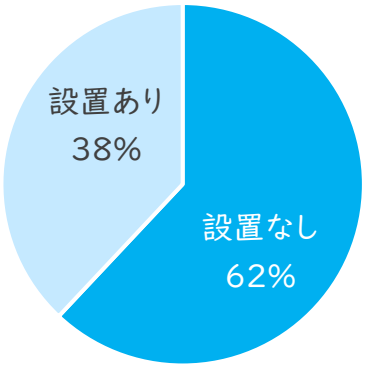
SSRでは、一人一人の特性や能力、興味や関心に応じた柔軟な学習ができるようにするとともに、自分のクラスとつなぎ、オンライン指導やテスト等も受けられ、その結果を成績に反映されるようにするとしています。

新潟県でも、COCOLOプランを踏まえ、SSRの設置を含めた不登校児童生徒支援の充実を推進しています。

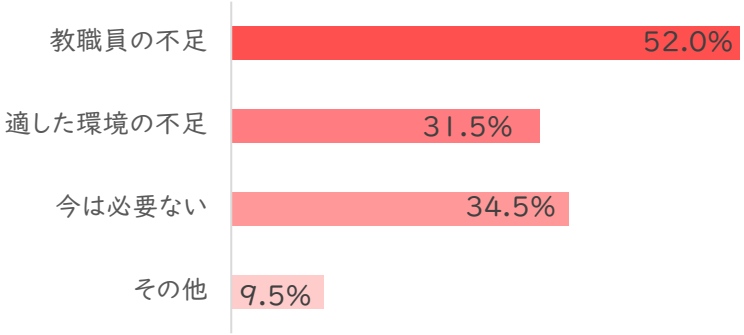
参考　県内の校内教育支援センター設置状況

令和6年度　生徒指導課調べ

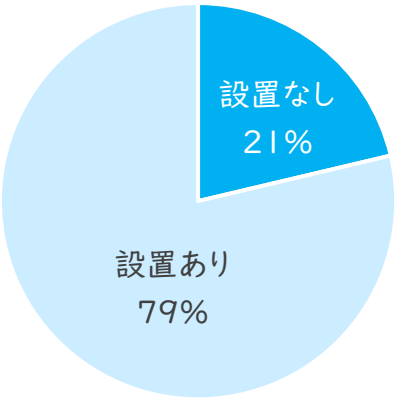
小学校



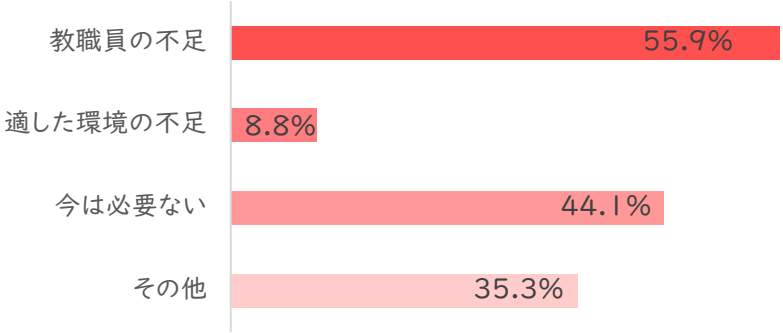
設置できない理由（小学校：複数回答）



中学校



設置できない理由（中学校：複数回答）



設置できない理由の具体（主な内容）

【教職員の不足】

- 級外の教職員がいない。
- SSRの学習支援ができる人員が不足している。
- 支援員はいるが、終日勤務ではないため、SSRを終日設置することができない。

【今は必要ない】

- 不登校児童生徒がいない。
- 不登校児童生徒は、登校すれば教室で学習する。

【適した環境の不足】

- 空き教室が無い。
- 空き教室前の人通りが多く、落ち着いて活動できない。
- 冷暖房が無く、通年利用できない。
- 人目を気にせずに登校できる部屋が空いていない。
- Wi-Fi環境が無い。

２　県内における
SSR先進校の取組

ＳＳＲを新規に設置

糸魚川市立田沢小学校

［不登校児童の不安、悩み、ニーズ等］

- ◆ 登校はできるが、集団活動に抵抗がある。
- ◆ 同学年の学習内容についていけないため、一斉学習に不安を感じている。
- ◆ 生活リズム等の乱れから、登校する気力がわかず、欠席や遅刻を繰り返しがちである。

［テーマ］

教室以外の居場所をつくる

［取組内容］

１．SSR「つながりルーム」「プラス＋」（個室）等の整備

児童が「登校したい」「ここで過ごしたい」と思える環境の整備

SSR「つながりルーム」

①「プラス＋」の部屋

SSR「つながりルーム」以外の居場所

① プラス＋ （通常学級の隣の部屋）
- 不登校傾向の児童が一時利用する
  → 遅れて登校した児童が利用することもある

② のびのびる～む （学習室）
- 児童のニーズに応じた学習支援を行う

③ かがやきリセットルーム
- 一時集団から離れ、クールダウンを行う

②「のびのびる～む」

2.　かがやきプラン

利用児童が主体的に１日の計画を立てる「かがやきプラン」を作成

かがやきプランの作成 → **プランに沿った取組** → **振り返りカードに記録** → **かがやきプランの作成**

児童のよいところに注目して振り返り、**自己効力感UP⤴**

保護者と情報共有

１日の様子と、児童の成長を伝え、家庭の理解と協力を得る。保護者の安心にもつながる。

＋

かがやき会議（ケース会議）

年数回、管理職、担任、生活指導主任や保護者で、今後の短・中・長期目標を見直す。必要に応じ、スクールソーシャルワーカーや特別支援教育担当が加わることもある。

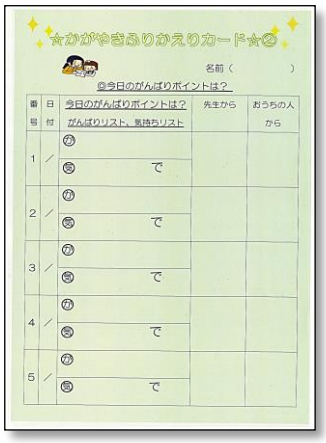
ちょっと工夫

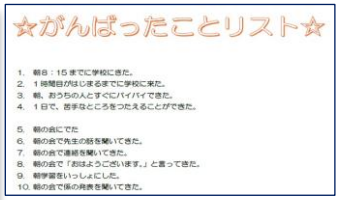
振り返りカード

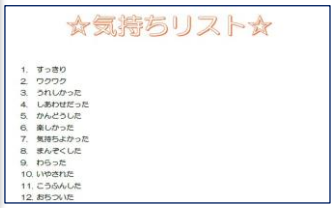
自分の気持ちを表現することが難しい児童のため

① がんばったことリスト
② 気持ちリスト　　を作成

児童がリストから選ぶことで、自分のよいところや、その時の気持ちを容易に振り返ることができる。







がんばったことリストは61項目、気持ちリストは36項目から構成される。　※ 上記はリストの一部

［成　果］

不登校児童　0人

・教室に行きにくい児童が登校した際、SSRを利用することで個に応じた学びにつなげている。
・児童の状況に応じ、プラス教室など、様々な場所を活用することで、不安を抱えた児童に対し、きめ細やかな支援ができている。

児童が運営に参画

南魚沼市立六日町小学校

［不登校児童の不安、悩み、ニーズ等］

- ◆ 教室での一斉授業を苦手としており、静かな環境で自分にあった学習がしたい。
- ◆ 自分の気持ちを理解してくれる人が近くにいてほしい。
- ◆ ＳＳＲとして活用できる教室や人員が不足している。（学校の不安・悩み）

［テーマ］

児童の意見を取り入れ、作りかえる

［取組内容］

１．　児童とともに行うSSRの整備

SSRとして十分に機能していなかった部屋を、改めて整備を進めた。

SSRを利用する児童が自ら必要なものを考え、教職員と相談しながらSSRの整備を行った。

児童が主体的にSSRの整備を行うことで、登校も継続するようになっている。

休憩スペース。児童の希望で畳を敷いて、よりリラックスできる空間に。

集中して勉強するスペースと、交流スペースを分けて設定。

2.　SSRの取組発信

「SSRでの取組を発信したい！」という利用児童からの提案があり、一人一台端末を使い、教室で学習できず、SSRを利用していない児童に対して、SSR利用生徒がSSRの取組内容等についてプレゼンテーションを行った。

利用児童から「保護者にも聞いてほしい」という提案もあった。

SSR利用児童が発信したプレゼンの一部です。
グラフや写真を用い、わかりやすく説明しました。

3.　家庭教育支援チーム「だんぼの部屋」との連携

南魚沼市では学校内に家庭教育支援チーム「だんぼの部屋」を設置している。

「だんぼの部屋」の支援員が、SSR利用児童の様子を見守り、気づいたことを教職員に伝えている。

また、不登校傾向児童の保護者の話を聴くことで、保護者のサポートも行う。

「だんぼの部屋」とは？

南魚沼市は、文部科学省のモデル事業における補助を活用して、家庭教育の充実を目指し家庭教育支援チーム「だんぼの部屋」を設置。

子育てに不安や悩みを持ち孤立しがちな保護者、家庭教育について学ぶ機会のない保護者への支援を目的に活動を開始。

学校の保護者、元保護者など18名から成る。

H30.11 文部科学省「家庭教育支援チーム」の手引書から一部引用

［成　果］

SSR利用児童が主体的に活動し、登校意欲が高まる

・SSR利用児童は、SSRでの学びを楽しみに、欠席なく登校している。
・SSRの整備と、担任の粘り強い支援により、SSR利用児童が、今まで参加できなかった行事に参加したり、教室に給食を取りに行ったりするようになった。

オンラインの活用

村上市立村上東中学校

［不登校生徒の不安、悩み、ニーズ等］

- ◆ 学校生活や学習についていけなくて疲れや不安が高まっている。
- ◆ 教室から離れてしまうことで、学習への不安を感じている。

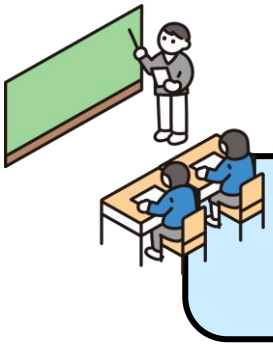
［テーマ］

生徒のニーズに応える

［取組内容］

１．教室とSSRをオンラインでつなぐ

授業は受けたいが、集団の中に入るのは難しい生徒のニーズに応え、オンラインの学習環境を整備。



教　室

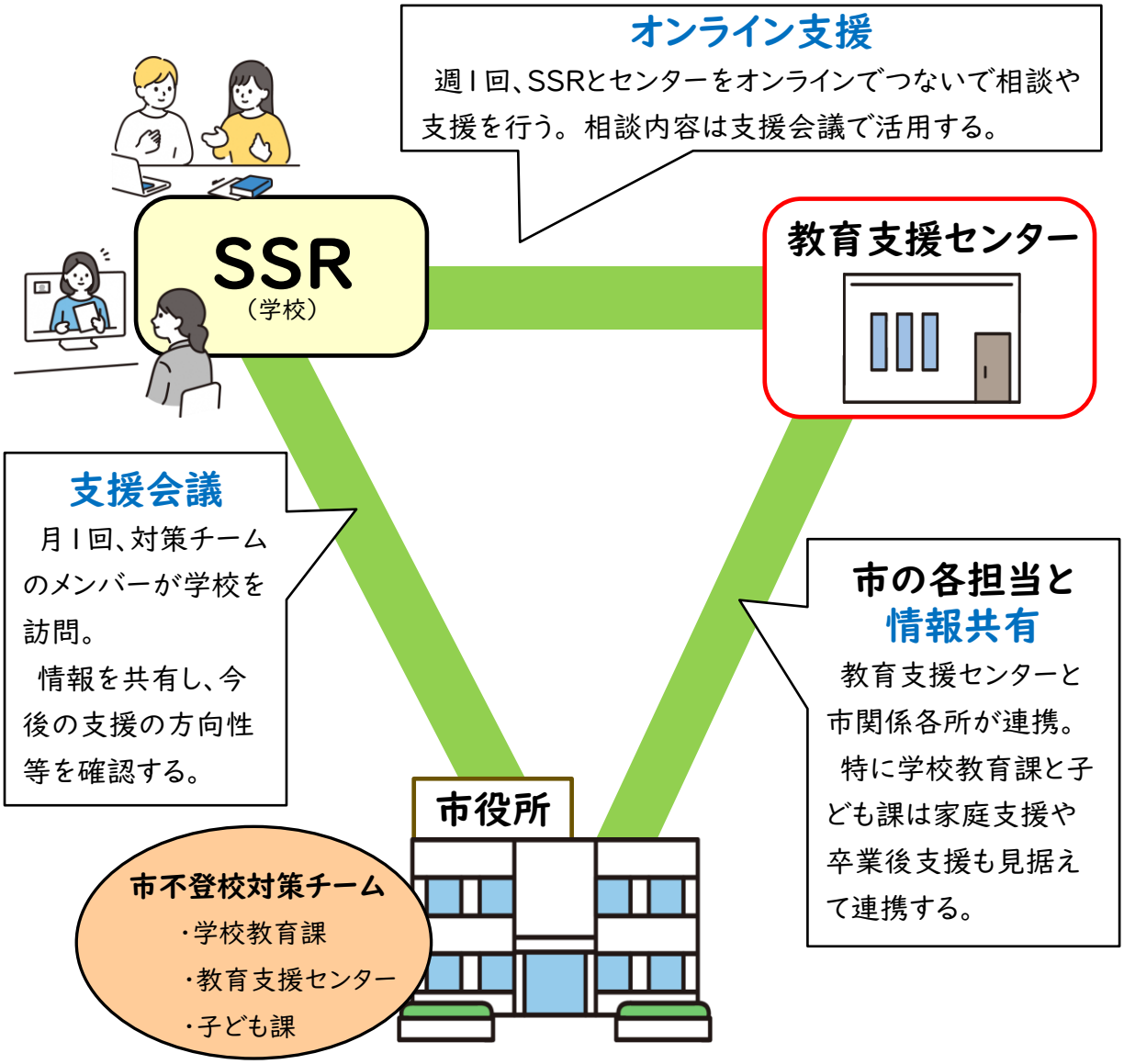
SSR

・タブレット端末等を活用し、授業を配信する。
・授業で活用するプリントは、あらかじめ授業担当者がSSR利用生徒に渡す。
・オンラインの設定はスクールサポートスタッフ（SSS）が行う。

・タブレット端末で学習に参加。
・朝会や行事のオンライン参加も可能。
・本人の希望に応じ、SSRからの発言、質問など、双方向のやりとりも可能。
・学級担任と端末で交流。
※ 初期は授業視聴のみのオンライン授業のほうが、生徒の心は安定する。

2.　市とSSRの連携

市の教育支援センターと市役所が連携し、SSR利用生徒を支援する。



SSRでの支援を学校だけが行うのではなく、市が学校と連携することで、生徒のニーズに応じた支援を適切に行うことができる。

［成　果］

SSRが大切な居場所に

・SSR利用生徒は、毎日SSRと教室をオンラインでつなぎ、授業を受けている。
・「学校生活アンケート」で、SSR利用生徒は「SSRは安心して過ごせる場所」と回答している。

学校＝共生社会を学ぶ場

上越市立城西中学校

［不登校生徒の不安、悩み、ニーズ等］

- ◆ 対人的な不安や、学業不振に関わる不安、家庭生活等に関する不安などを感じている。
- ◆ 安心して生活できる空間や時間、人との関わりを求めている。

［テーマ］

地域と共に多様な学びの場（居場所）を創る

［取組内容］

１．SSRの複数設置

自分にあったSSRを生徒が選べるようにする。

ＳＳＲ①

にじいろ　１

次のステップに
移行するための場

- 授業時間の枠で学習する
- 可能な範囲で、教室の授業に参加する
- 運営は市職員（生徒指導支援員）及び教員が行う

ＳＳＲ②

にじいろ　２

学校内の居場所
「登校してくれてありがとう」

- 何時に登校、帰宅してもよい
- 自学自習を基本とする
- 「周りの人に迷惑をかけない」がにじいろ２の約束
- 全教職員が支援を行う
- 地域人材を活用する（次頁参照）

2.　地域人材を活用したSSRの運営

地域人材の活用

SSR運営に協力いただける人材として、以下の方に依頼した。

①　上越教育大学 学生ボランティア
②　コミュニティ・スクール（CS）ボランティア
③　地域ボランティア　※ ②の他に、SSR運営に協力いただける地域の方

→　①～③の方から、実際にSSRへ入っていただき、チームで生徒を支援する。

地域人材と連携した例　**「にじいろイベント」**

○ 月１回、SSR担当がイベントを企画する。
○ 地域人材にも講師を依頼する。
○ 実施内容は、多岐にわたる。

【実施内容の例】
・フラワーアレンジメント　・陶芸　・ヨガ
・ボードゲーム　・マジックショー
・読み聞かせ　・ボッチャ　など

○ 複数の学校職員も生徒と共にイベントに参加する。イベントの講師を行うこともある。
→ SSR利用生徒との関係づくりにつながる

フラワーアレンジメントの
にじいろイベントの様子

プラス１　不登校支援の効果的な取組

教職員が連携する「チーム担任制」

１つの学級を
複数の教員が担任
・担任をローテーションする
・学級のことをチームで行う
・SSR生徒対応も全員で行う

生徒・保護者のメリット
・相談できる先生が増える
・多くの先生からサポートを受けられる

教職員のメリット
・１人では難しい事も、チームでできる
・不登校支援を担任が１人で背負わない

［成　果］

不登校生徒数の減少

・同学年（令和５年度１、２年生と令和６年度２、３年生）を比較し、不登校生徒数が21名から14名に７名減少した。

生徒が選び、教室での活動にも参加

・SSR利用生徒が、SSRでの学びや支援をきっかけに、多様な学びの場を自ら選択し活動している。令和６年度はSSR利用生徒22名のうち、18名が教室でも活動している。

学童保育教室の活用

関川村立関川小学校

［不登校児童の不安、悩み、ニーズ等］

- ◆ 教室での一斉授業を苦手としており、静かな環境で自分に合った学習がしたい。
- ◆ 自分の気持ちを理解してくれる人が近くにいてほしい。
- ◆ ＳＳＲとして活用できる教室や人員が不足している。（学校の不安・悩み）

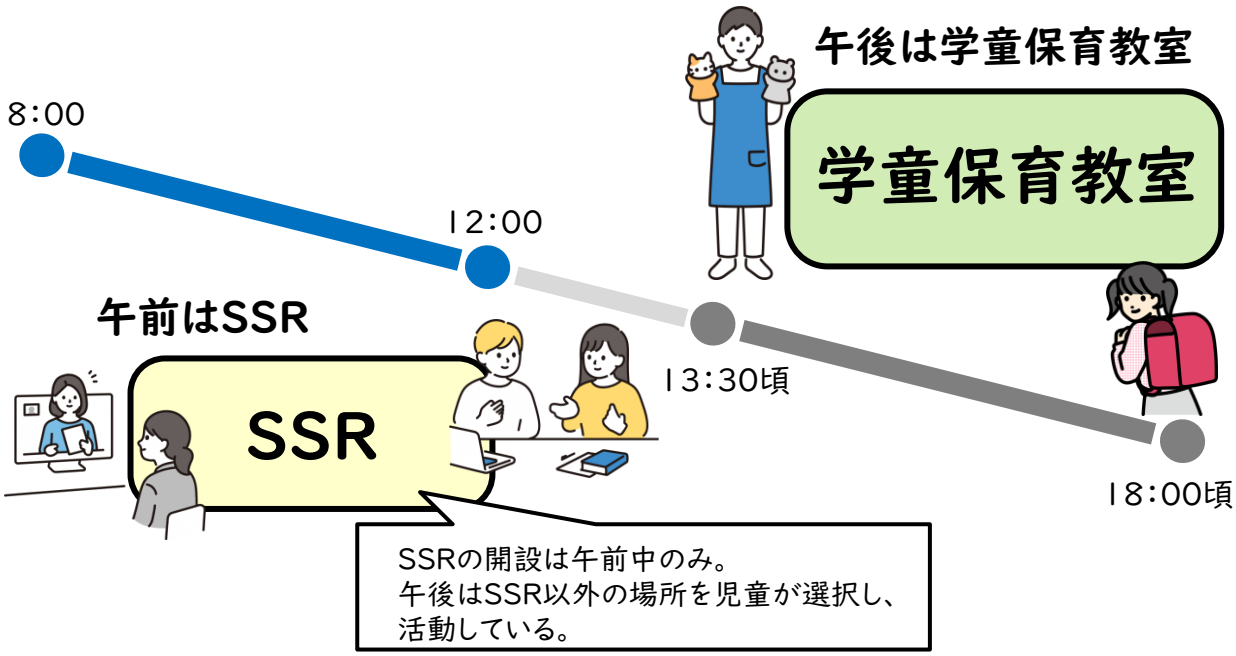
［テーマ］

学童保育教室を活用する

［取組内容］

１．SSRと学童保育教室の施設共用

SSRとして利用できる教室が無いため、学童保育教室の午前中、利用していない時間をSSRとして活用する。



放課後学童保育教室の部屋を、SSRとして共用することで、学童保育教室内の備品も共有でき、初期整備費用の削減も可能になる。

2.　共用するSSRの様子

3.　SSR支援員

村が独自に支援員を雇用して、SSRの支援を行う。

(1) 支援員の勤務
- １日４時間勤務
  (8:00～12:00)
- 週５日勤務

(2) 主な業務
- 担任との打ち合わせ
- 児童の学習支援、補助
- 利用児童の情報交換　等

［成　果］

利用する児童の安心につながる

- 専属のＳＳＲ支援員が常時勤務することにより、児童は、SSRを抵抗なく利用できる。
- 利用児童は自分に合ったニーズで学習でき、継続した学びにつながっている。
- 同じ支援員による出迎えも、SSR利用児童の安心につながっている。

ＳＳＲにおける学習と評価

柏崎市立鏡が沖中学校

［不登校生徒の不安、悩み、ニーズ等］

- ◆ （様々な要因から…）教室に入ることができない。
- ◆ 周囲の目が気になってしまう。大きな集団で活動することに抵抗がある。
- ◆ 一斉での授業のペースについていけず、自分のペースで勉強を進めたい。
- ◆ 勉強の遅れが気になるが、将来に向けて準備をしたい。

※　不登校傾向生徒の不安、悩み、ニーズを含む

［テーマ］

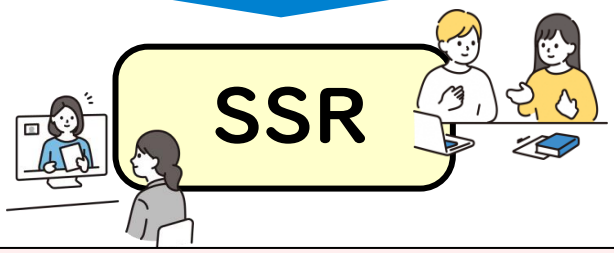
ＩＣＴを活用した学習支援と学習評価で“学び”を保障する

［取組内容］

１．５教科の学習について

動画コンテンツ準備・紹介	オンライン授業配信	学習資料や教材を提示
県が作成した「学びポケット」や、市が導入したICT学習支援アプリ等を活用	生徒の希望をもとに、一人一台端末を活用し、自分の学級の授業に参加。単方向・双方向、いずれも対応可能	授業で活用した資料はもちろん、生徒の希望で過去の学び直しにも対応

自分に合った方法を選択して学習



課題の取組状況やテストの取組を評価

［定期テストについて］

- テストを「受ける」「受けない」「一部受ける」を生徒が選べる。
- SSRや自宅など、テストをどこで受けるかも担当者と相談して決める。
- テスト後は解説や補充などのアフターフォローも個に応じて行う。

2.　技能教科の学習について

技能教科においても、SSR内でできることを提案。それらを評価し、成績に反映させる。道徳等の評価については、今後整備していく予定。

音　楽

・一人一台端末で鑑賞
・合唱祭の感想等も鑑賞評価の一部として活用

保健体育

・保健の授業を実施
・体育館で個人技能評価
・SSRでダンス等の技能も

美　術

・ポスターや篆刻等に取り組む
・自分のペースで１日じっくり創作活動に取り組むことも

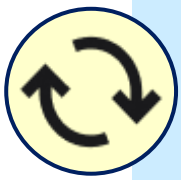
技術・家庭

・木工、裁縫等に取り組む
・情報は一人一台端末を活用
・教科担任がポイントを説明

3.　充実した学習と評価のための工夫

教職員の配置

・指導と評価ができるよう、教科担任を週１回程度SSRに配置する。
・事前に週の予定や各時間のSSR担当職員を通知し、生徒に学習の見通しをもたせる。



教職員の意識

・「教育機会確保法」や「COCOLOプラン」にもとづき、生徒の学びをコーディネートする。
・教室の授業に参加しなくても、ICTを活用し、学ぶ機会を確保することで、評価やアフターフォローもできる。

［成　果］

SSR利用生徒の学習に対する意識の変化

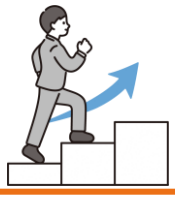
利用生徒の１人は「教室の授業はペースが速く、内容も難しいため、ついていくことができなかった。SSRで学ぶ方が、自主的に学んでいると感じる。SSRでは、主体的に学ぶことができている。」と話しており、個に応じた学びにつながっている。

３　SSR設置・運営で大切なこと

～ 各学校の取組から ～

人的配置の工夫

- 担当者（生活指導主任・生徒指導主事など）を級外とし、SSRにおける迅速な支援を可能にしている。
- 遅刻、早退する児童生徒への対応を、管理職や養護教諭が行っている。
- 市が独自に学習支援員を雇用し、1名学校に常駐させている。
- 一部の教職員に負担が偏らないよう、全教職員がSSRを担当している。
- SSRの主担当は決めるが、役割を分担し対応している。
- 毎時間の担当を、日課表（その日の時間割）に明示している。
- 地域や学生のボランティアに、SSRでの支援補助を依頼している。



設置環境の工夫

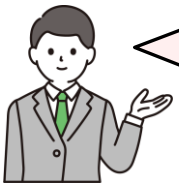
- 静かで、落ち着いて過ごせる部屋をSSRにしている。
- 児童（生徒）玄関から、すぐに入ることができる部屋をSSRにしている。
- 他の児童生徒と顔を合わせずSSRに入ることができる動線を工夫している。
- 職員室や保健室に近い部屋をSSRにしている。
- 学年専用のSSRを設けている。
- 冷暖房設備がある教室として、旧コンピュータ室をSSRにしている。
- 円卓やソファを設置し、居心地のよい空間にしている。
- パーテーションで仕切り、1人の空間を作れるようにしている。
- 出入口を開けた時、SSRの中がすべて見えないよう、カーテン等を設置している。
- Wi-Fi環境や大型モニターを整備し、オンラインを利用した学習ができるようにしている。
- それぞれがオンラインで教室授業を視聴した際、互いの学習を妨げないよう、ヘッドフォンを準備している。

運営の工夫

- 登校後、SSR利用児童生徒がその日の予定をプリント（ノート）に書き、見通しをもてるようにしている。
- 登校後に、担当教職員が面談をし、1日の活動について自己選択・自己決定ができる時間を設けている。
- SSR利用児童生徒が望む場合、「自教室に入ったら、どのように活動に参加できるか」を考え、授業準備をしている。（自教室に入らないことの方が多いが、準備はする）
- 教科書やプリントを常時準備しておき、学び直しができるようにしている。
- オンラインのアプリを活用し、翌日の日程をSSR利用児童生徒を含めた全員と共有している。
- オンラインで事前に学習プリントを配付し、オンラインでの学習に参加できるよう働きかけている。
- オンラインの学習アプリを利用し、結果を評価につなげている。
- 集中して取り組める作業や軽運動など、児童生徒のニーズを踏まえ、SSR内で実施可能な活動を提案している。
- 支援員が週に1回、SSRを利用する児童生徒が参加できる交流活動の時間を計画して取り組んでいる。（参加は任意）
- コミュニケーション能力を身に付けるため、カードゲーム等を準備している。
- スクールカウンセラーが訪問する日は、優先して面談できる時間を確保している。
- 児童生徒本人、保護者、教職員による話し合いを定期的に行い、目標設定や計画の見直し等を行っている。
- 長期休み、登校できる日を設定し、技能教科のテストや実習などを行い、評価につなげている。

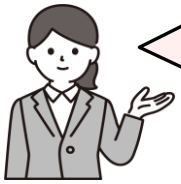
4　SSR設置・運営 Q&A

SSRを設置したいです。どこかに申請する必要がありますか？



SSR設置の際、**申請は必要ありません**。校長の判断で設置することができます。市町村によっては支援員を配置する場合がありますので、市町村教育委員会と相談して設置する必要があります。

SSRを設置したいのですが、まずは何を準備したらいいですか？



通年、SSRとして**利用可能な部屋**と、机などの**SSR内の環境**を整備しましょう。同時に、利用予定の児童生徒と保護者の**ニーズを確認**しておくと、必要な準備の内容が見えてきます。また、対応できる**教職員や支援員の割り振り**も行いましょう。

年度の途中からSSRを設置してもいいですか？

年度途中からSSRを設置しても構いません。すべての児童生徒が学びにつながるよう、環境を整えましょう。

SSRの時間割は、学校の日課表にそろえる必要はありますか？

日課表通りの時間枠を基本としますが、机に向かって学ぶことが難しい児童生徒がいることから、**既成の枠にとらわれず、柔軟な運営**が求められます。

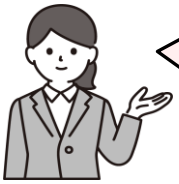
SSR内の学習環境も一律である必要はありません。児童生徒一人一人の**ニーズに合わせて整備**しましょう。

「SSR内のルール」として、どのような内容が必要ですか？

SSR利用児童生徒が複数名いると、考え方の違いから、トラブルに発展する場合もあります。

「周りに迷惑をかけない」を唯一のルールとしている学校や、問題が発生したら話し合い、**SSR内のルールメイキング**を行う学校もありました。

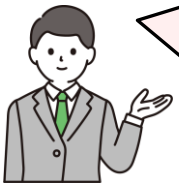
SSRを設置したいのですが、一部の教職員から理解が得られず、設置が進みません。どうしたらよいですか？



SSRの設置が進まない要因のひとつに、現在、国が示している不登校児童生徒に対する支援の考え方等について、理解が十分でないことが考えられます。

教職員を対象に、**市町村教育委員会の指導主事が、COCOLOプラン等について説明する**ことで、設置が進んだ事例がありました。

自教室で学ぶ児童生徒の一部から「SSRはいいなぁ」という声が出てきて、対応に困っています。



その様な声が上がることは予想されます。まずは、**共に認め・励まし合い・支え合う集団づくり**が大切です。

SSRの児童生徒が認められる集団では、学級内の他の児童生徒が登校できなくなったとしても、非難されず、安心して学びにつながることができると考えられます。

また、SSRのよさと同様に、自教室のよさもあります。それらを伝えることも効果的です。

不登校児童生徒の「学びの場」がたくさんあって、どこを提案したらよいか迷います。

SSRは、主に**「学校には通いたいけれど、教室には入ることができない児童生徒」に適した学びの場**です。

「今の学校に通うことが難しい」という場合は、市町村設置の教育支援センターやフリースクールを提案してみるとよいでしょう。

また、家から出ることができない場合は、家庭と学校をオンラインでつなぎ、授業を受ける環境整備も検討しましょう。スクールカウンセラーによる家庭訪問も行うことができます。

多様な学びの場については、以下の資料も参考にしてください。

児童生徒一人一人に応じた多様な学びの考え方

文部科学省作成資料

児童生徒が不登校になった場合でも、小・中・高等学校等を通じて、学びたいと思った際に多様な学びにつながることができるよう、不登校児童生徒の個々のニーズに応じた受け皿を整備する。

○学校に行くことができるが、自分のクラスに入りづらい児童生徒

校内教育支援センター
学校内の空き教室等を活用し、児童生徒のペースに合わせて相談に乗ってくれたり、学習のサポート受ける。
学校には行けるが自分のクラスに入りづらい時や、気持ちを落ち着かせてリラックスしたい時に利用するなど、緩やかに学校復帰や在籍学級に復帰する場として活用できる。

○家から出ることができるが、在籍する学校に行くことができない児童生徒

学びの多様化学校（いわゆる不登校特例校） ※令和５年８月31日に不登校特例校から名称を変更。
特別の教育課程を編成して教育を実施することができる学校。通常の学校より授業時数が少なかったり、体験活動や探究的な学習が充実しており、弾力的な教育課程の下、興味や関心に応じた柔軟な学びを行う。

○家から出ることができるが、学校に行くことができない児童生徒

教育支援センター
地域の教育委員会が開設しており、在籍校から配信される授業をオンラインで受けたり、支援員とともに個別の学習に取り組む。

フリースクール等
在籍校や教育委員会と連携しながら、学習や体験活動等に取り組む。

○家から出ることができない児童生徒

オンラインの活用
在籍校や教育支援センターの授業配信、オンラインカウンセリング等を自宅でうける。

アウトリーチ支援
学校とつながっていない不登校児童生徒及びその保護者に対して、NPO等との民間団体とも連携しつつ、教育支援センターから訪問支援をうける。

教育支援センター
地域の拠点となって、不登校児童生徒本人への支援に留まらず、その保護者が必要とする相談場所や保護者の会等の情報提供や、域内の様々な学びの場や居場所につながることができるようにする。

不登校支援で、効果があった取組を紹介してください。

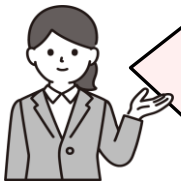
［事例①］

前年度、不登校でSSRを利用していた児童生徒に対し、**春休み中に教職員が短時間の個別登校や家庭訪問**を複数回行い、少しずつ不安を取り除きました。その結果、クラス替え後の新年度はじめから、自教室で活動できるようになりました。

［事案①の解説］

進級をきっかけに「変わりたい」と感じている児童生徒の支援を丁寧に行った事例です。

新しい教室等を事前に見ておくことで、不安が解消されることがあります。



［事例②］

学校や市の教育支援センターなど、不登校児童生徒を支援する関係機関とつながることができない児童生徒への支援の一歩として、まずは**保護者とスクールカウンセラーがつながり**を作りました。

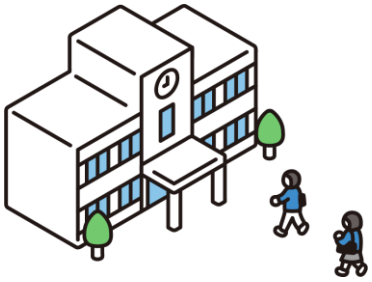
その後もスクールカウンセラーと保護者が継続して面談し、保護者をとおして、本人へのカウンセリングを促した結果、スクールカウンセラーとの面談に本人も参加できるようになりました。

スクールカウンセラーから働きかけを行ったことで、本人、保護者、スクールカウンセラーで一緒にSSRを見学し、その後SSRを利用できるようになりました。

［事案②の解説］

この事例では、まずスクールカウンセラーと保護者がつながることで、児童生徒本人の支援を間接的にはじめました。

学校の先生ではない人（本事例はスクールカウンセラー）が働きかけたほうが、適切な支援先にスムーズにつながることもあります。



校内教育支援センター（SSR） 設置・運営の手引き

令和7年3月発行
編集・発行　新潟県教育庁 生徒指導課
〒950-8570
新潟県新潟市中央区新光町4-1
電 話　025-280-5793